

BANDE  
DESSINÉE

山際

はどんなブックレビューを

書いただろう『神々の山嶺』夢枕獏・谷口ジロー

REVIEWEM

GOTOCHIHI

『神々の山嶺』を読んだ。

夢枕獏の小説を原作とした谷口ジローのマンガである。

山際淳司の『みんな山が大好きだった』で話題にされるアルピニストがモデルになっている人物が出てくる。

アルピニストとはいっても、ヒマラヤ山脈を単独行で登る人物たちである。

山際がこの小説を、このマンガを、そして映画を観たら、どう思うだろう。スポーツ記者として何か記事、書評、マンガ評、映画評を書いてみたかったのではないのか。

単独行を行うアルピニストは、そうとうに我が強い。

山岳界隈では有名なので、省略して話すとその昔、日本山岳協会はK2の冬季登頂に第1アタック、第2アタックと部隊をふりわけたのだが、第2アタックに選ばれたある人物は、K2に登るのをやめてしまう。もちろんこの人物は『神々の山嶺』に登場する登山家のモデルである。

予想された通り、第1アタックは登頂に失敗。後発の第2アタック部隊が登頂に成功する。もし第2アタック部隊に控えていれば、前人未到の冬季初登頂に…こうしたサブには回れない山男たちの実際のエピソードをモデルとしながら、聖なる山サガルマータを舞台にソロクライマーたちの物語、情念が錯綜する。

いわゆる八千メートル級の山々を単独行で登頂を目指すようになれば、命の危険と隣り合わせになる。

今、ネパール政府が禁止している冬季の単独登頂を、ソロクライマーたちが目指すのだが、その理由は山際の著書『みんな山が大好きだった』に書かれている。全ての山が征服された後、今度は命を落としかねない過酷な条件で登ろうとする。誰も成し得なかったことをやりたいのだ。

その人物たちを見ている山岳記者の深町は、山際の姿と重なる。

単独行を普段している山男が二人組みで山にアタックすると、共倒れになる。

それは我が強いからだ。

自分さえ生き残ればいいと、割り切らない。

語義矛盾しているような書きかたになるが、生き残るためのエゴイズムよりも、私の強さが凌駕する。

そんな男達の物語だ。

一人単独行するアルピニストの記事「山狼伝」とは“山男の死に方”の事ではないか。文庫『みんな山が大好きだった』の単行本の原題が『山男の死に方』なのだ。「山狼伝」を書いた山岳記者深町は、山際に重なるのは不思議ではない。

1995年、山際の死後、深町はエヴェレストに挑む。

真実を知るために、最高峰を目指す。

実はその際、ベースキャンプに女性を残している。一人残していけるのは、まだ20世紀の頃だからだ。

21世紀は山野井夫妻の物語になる。ペアクライマーでの登頂になる。ロープで体をつないでい

なければ、雪崩で確実に死んでいたということもあったという。

もちろん彼らは登山による凍傷によって、いくつも足指、手指を失っている。正直、同意をとりつけるのは難しいだろうが、失った指の数だけ、山への愛が深くなっている気がする。

だが生命倫理上、山で死んでしまうことを肯定できなくなる。

昭和に出版された原題『山男の死に方』は、山での死を肯定的に扱っている。幸福な死として山際は捉えている。

しかし前述したネパール政府が禁止した件が端緒か、登山死を認めない政府や管理側が好ましくないとするものが多くなったのだろう、山野井も山での死を肯定できず、平成ではもう山男の死に方は、できなくなった。文庫復刊で題名も解題せざるをえなかった。

しかし、あえて言わせてもらえれば、山際の考えには同調したい。山で死ぬのは、本当は幸福な死ではないのか。日常生活者の自分がけしてできないことに挑む者へ憧れを持つ。この憧れが無くなったとき、またヒーローも不在となる。

そのヒーローとはなんであるか。

山際は、どこか孤高の存在を求めている。それは8000メートル級の霊峰のような存在だ。そんなチームの中で孤立しているかのような人物であっても、彼を理解している者が、一声かける。

山の中での酸素欠乏による幻聴は、それではないのか。マウンドという聖山に孤独に立つピッチャーに「オレも同じ気持ちだ」と、チームメイトが声をかけたように、私も「山際さんと同じです」と、声をかけたい。

山際は私のヒーローだからだ。

谷口のことにも触れねばならない。

谷ロジローは山に挑んだ男達が、山に死んだように、マンガに死んだ。

それが彼の“山男の死に方”なのだ。山男にも死に方があるように、マンガ家にも死に方がある。病室で関川夏央と編集者を交え、『事件屋稼業』の続編の構想を練っている。しかし「未踏峰」を残して、彼もまたマンガという山に死んだ。

それは、幸福な死ではないのか。

彼の聖なる山がマンガであったのだ。

バンドデシネレビュー 山際はどんなブックレビューを書いただろう『神々の山嶺』 夢枕獏・谷口ジロー

<http://p.booklog.jp/book/120622>

著者：ゴトチヒ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gotochihi1980/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/120622>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト

## 少年漫画家よ 若葉の下にて 永遠に眠れ

アマゾン パプーにて配信

マンガレビュースペシャル  
兄になりたかった人  
持論の寺田ヒロオ評



書いけいけい『峠々の山嶺』夢林藪・谷ロシロー

**山嶺**

おぼろちねぶシクフゴロ一松

**MANGA REVIEW**

**コトヒ**